

太田市立太田高等学校アメリカ研修 9 日目 (3/11)

昨日は 2:00AM ごろホテルにチェックインしたため数時間しか睡眠をとれない状態でしたが、多くの生徒は集合の 8:50 までにロビーまで降りてきていました。数名寝坊をしてしまった生徒もいましたが、急いで準備をし、予定していた時刻でバスは出発。20 分ほどでラフィエット最初の訪問先であるパデュー大学に到着しました。

パデュー大学では毎年このプログラムでガイドをして下さっている大学院生アガタさんに今年もご担当頂き、大学の方のお話しの通訳や、大学構内の案内をして下さいました。まず、ボイラーメイカーと言う大学のマスコットキャラクターである機関車の前で、記念撮影。今回は特別にこの機関車型の車に乗せて頂けることになりました。汽笛の音もそのままに大学内を隅々まで回って行きます。この車はパデュー大学のバスケットチームが試合のある日などは朝から町中を走っていると言う話もお聞きしました。パデュー大学のバスケットチームは大手のスポンサーが付いており、アメリカの大学スポーツは大きなビジネスと言う興味深い説明を受けながら、立派なスタジアムも見学しました。トレーニングジムやメディカルセンター、練習用コートなど全てが大学の施設とは思えない規模で生徒たちも吃驚した様子。ニール・アームストロングを始め多くの宇宙飛行士を輩出してきたパデュー大学ならではの宇宙工学を学ぶ校舎、3Dプリンターが並ぶ実験施設など、春休みと言うことで大学生はほぼいないこともあり、ゆっくりと見ることができました。

パデュー大学と言えばノーベル化学賞を受賞した根岸教授がいらっしゃいますが、昼食後は教授がノーベル賞を受賞された後に作成された動画を見せて頂きました。なんとアガタさんが自ら日本語の字幕を作って下さり、インタビュー内容もより正確に理解をすることができました。その後少し時間ができたので、アガタさんと昨年からパデュー大学の研究員となられたワタナベさんから何か質問があれば、との投げかけがありました。生徒は最初は遠慮がちでしたが、お二人の気さくな人柄に徐々に手を上げる人数が増え、なぜアメリカの大学を選んだのか？将来の夢は？と言うお個人的なことから、コミュニケーション力とは何なのか？今後世界はどのように変わっていくか？と言う大きなテーマまで、まさに気になることを率直に尋ねていました。お二人が仰っていた「英語が苦手だからと言って留学を諦める必要は無い」との言葉に勇気づけられた生徒も多く、アメリカの大学に行きたいと思いはじめた、とはっきり自分の意思を伝える生徒もいました。そういった生徒に対しては、勉強するに当たり、専門的な分野の勉強に没頭するのではなく、異分野の人たちと関わっていくことが大事とのアドバイスがありました。言葉の壁を越えてコミュニケーションを取ることはこの研修で皆が挑戦していることでもあり、その大切さを改めて感じました。今後将来を考えた時、1つの選択肢としてこの場所が浮かぶ生徒もいるかもしれません。



ボイラーメーカーの前で



機関車型の車に乗車



多くの手が上がった質疑応答



パデュー大学のPのモニュメント



生徒代表から感謝の言葉



全員での夕食の様子